

# 遍路の日常と出会いと気分、 楽しいことは何か

四国遍路2

遍路の装束。金剛杖、箕傘(ビニールカバーがついている)、頭陀袋(納経帳、数珠、線香など)、白衣、このほかに輪袈裟。



足もとが歩き遍路の生命線。中央の28cm、幅広の1900円の靴が私の保護者。左右は26cm。



私の遍路スタイル(この日は雨模様だったので山歩き用の防水上下を着ている)第3番金泉寺で。 装束は上から菅笠、環袈裟、白衣、山野袋、杖などで合計16,775円



# 一人歩き同業二人は、何を考えている？

「遍路は結局一人で歩く」ということが分かって、面白かった。遍路宿や札所、休憩所などで一緒になっても、歩き出すとすぐに、別々になった。

スタートから一緒の夫婦や親子、仲間は別であるが、一人歩きはひとり歩きになる。

これは仲が悪いということではなく、歩調を合わすとストレスがたまるからだ。

では、一人で何を考えながら歩いているのか。

私は、歩き座禅(妄想を続けること)だと思った。

# 歩き遍路の一日

- ・朝、4時半～5時に起きる
- ・6時～7時に朝食、大きい茶碗にご飯を二杯以上
- ・6時～7時に出発
- ・12時半頃まで歩く。
- ・途中に札所(88ヶ寺)があれば納経など
- ・一カ所20～30分かかる
- ・1時半から3時半～5時半ぐらいまで歩く→宿に入る
- ・洗濯、次の日以降の旅程管理、予約入れのTEL
- ・6時～7時食事、時には晩酌(ビールor日本酒1～2合)
- ・8～9時就寝

座禅は妄想時間みたいですが。では、どんな妄想か

- ・とにかく黙々と歩いている人が多かった  
それは無理もない。一日30キロ歩くということは、くたびれる。
- ・毎日宿に着いて、食事が終わると眠くなった。
- ・私は25キロぐらいに減らして、きょろきょろ眺め、写真を撮り、昔の遍路標識を探した。

遍路ころがしと言われた焼山寺へ登る途中。  
左が名古屋から29才、中は中国長春より名古屋大学に留学  
(34才)、右は同じく名古屋方面から26才。





# 小生のにやけた顔

